

パネリスト発表

<パネリスト> (発表順)

- ① 小泉 明 氏 (東京消防庁 救急部 救急指導課課長補佐)

- ② 橋本雄太郎 氏 (杏林大学 総合政策学部 教授)

- ③ 小澤 浩子 氏 (赤羽消防団 副団長)

- ④ 木崎 禎一 氏 (巣鴨地蔵通り商店街振興組合 理事)

- ⑤ 白川 真弓 氏 (大田区 健康政策部 健康医療政策課長)

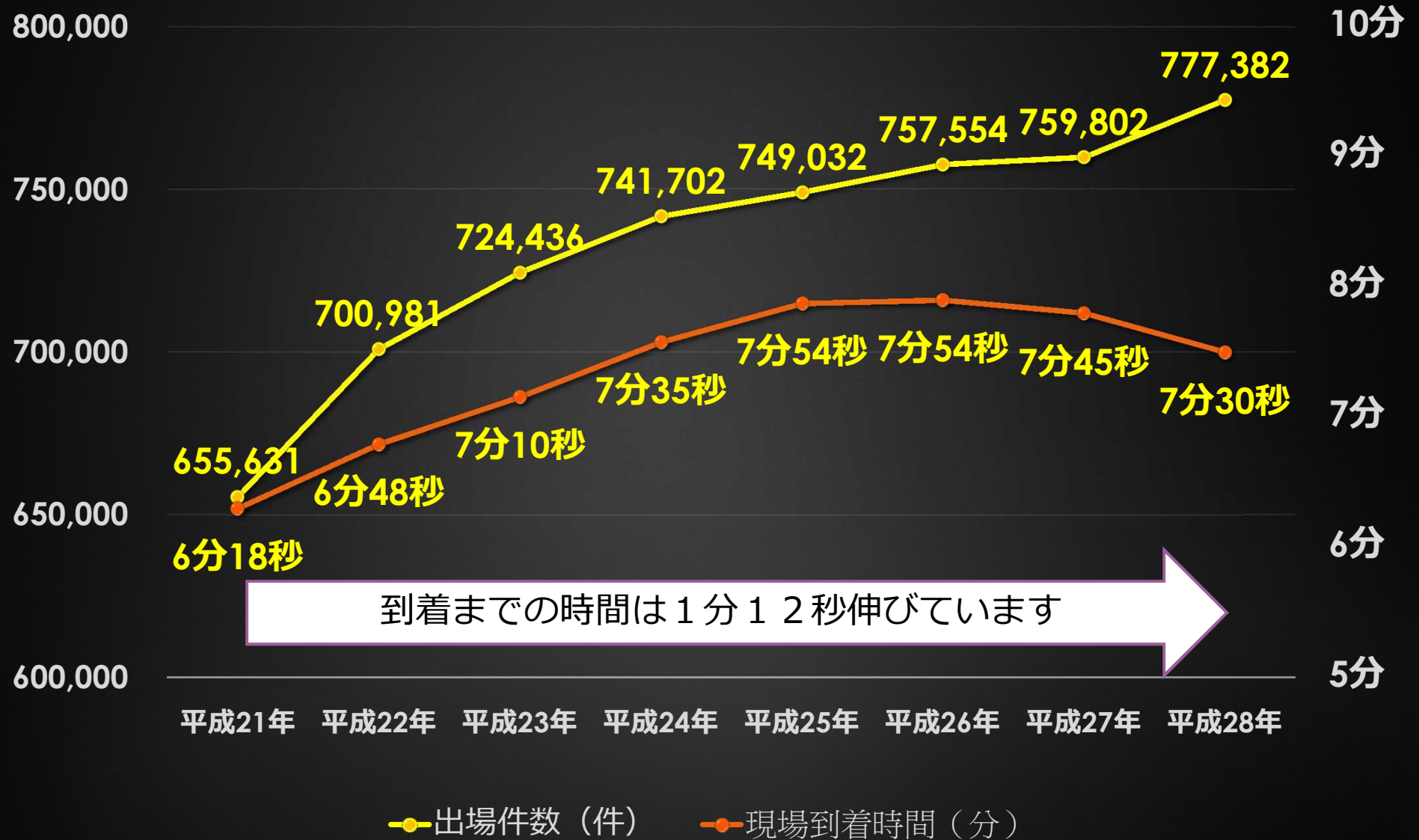
応急手当を取り巻く現状



東京消防庁 救急部

小泉 明

救急出場件数及び現場到着時間の推移



東京消防庁の救急隊

救急隊数	251隊
一日平均 出場頻度	2,124件 41秒に1回

救急活動の現況（平成28年）

病院へ行く？ 救急車を呼ぶ？
迷ったら…

電話でも！ネットでも！

#7119

その電

いますが、出動できる救急車の数には限りがあり、利用が増えると、本来近くから駆けつけるはず

救急隊到着までの応急手当の重要性



AEDの除細動(電気ショック)による心拍再開率^{※1}

[倒れるところを見たなど、バイスタンダーによる心停止の目撃がある場合]

バイスタンダー
が実施



63.7%

バイスタンダーは未実施で
救急隊が実施



34.1%

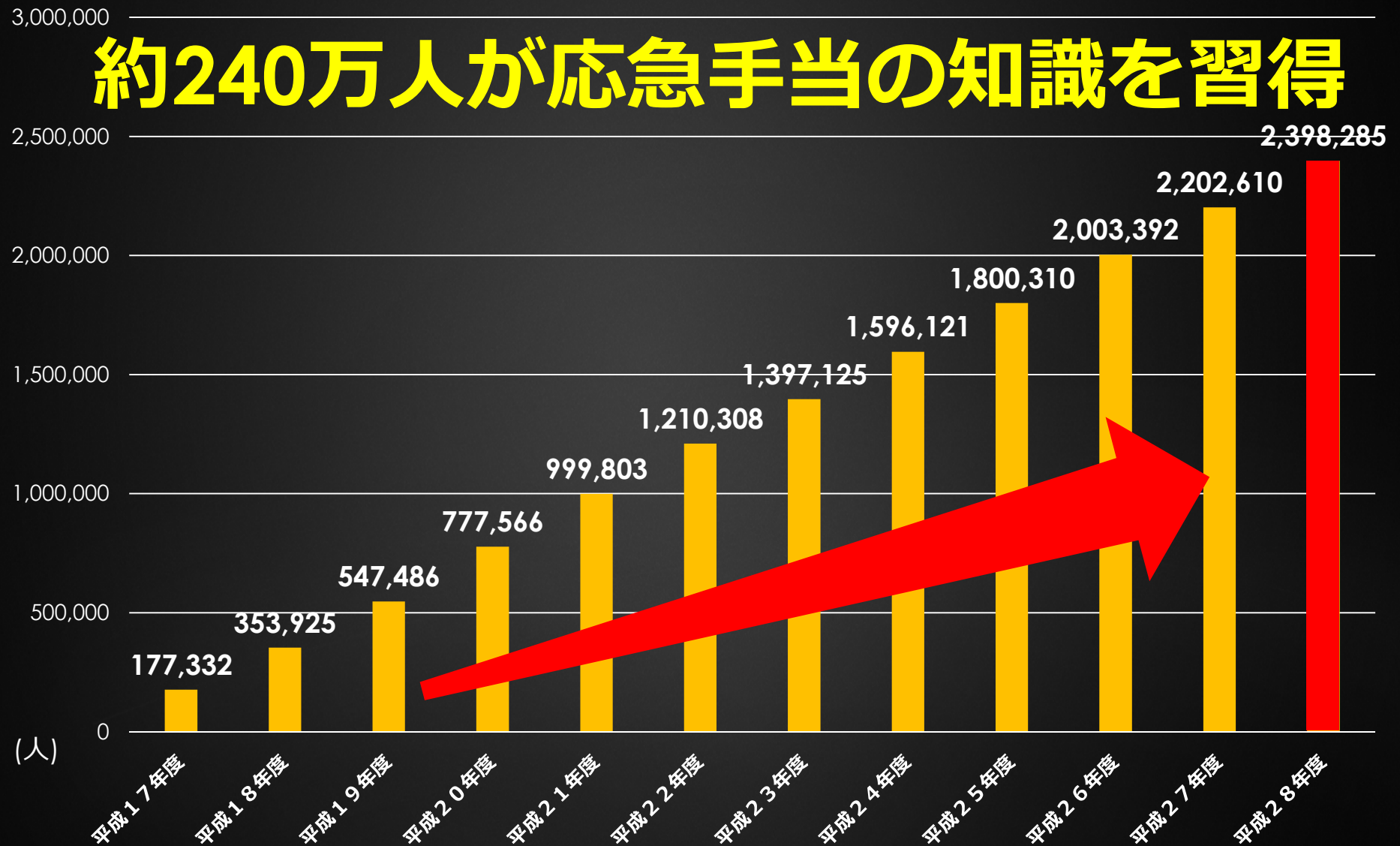
※1 平成27年東京消防庁「救急活動の現状」より

速やかな対応が
大切です。



救命講習受講者数の推移

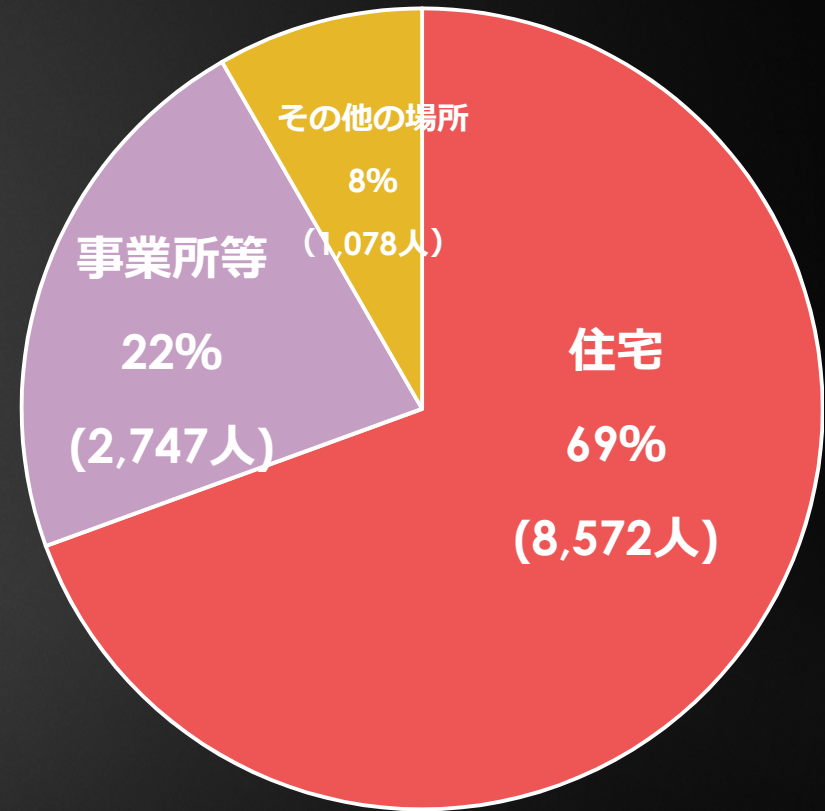
約240万人が応急手当の知識を習得



心停止傷病者発生場所別の応急手当実施状況等 (平成28年中：東京消防庁)

発生場所別の心停止発生割合

発生場所	搬送人員	心停止 目撃	応急手当（胸骨圧迫・ 人工呼吸・除細動）	
	a	b	c	実施率（c/b）
住宅	8,575	2,874	825	28.7%
事業所等	2,747	1,450	980	67.6%
その他の場所	1,028	497	202	40.7%
総計	12,350	4,821	2,007	41.6%



事業所等⇒多くの人が集まる
応急手当を知っている

⇒誰かが手を差し伸べてくれる可能性

自宅⇒自分だけ（少人数）
大切な人であるが故の動揺

⇒自分が手を差し伸べる必要性



- ★応急手当の知識（救命講習受講）
- ★勇気をもって手を出すことが重要